

生涯学習情報紙

2022
4月

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第340号



(しげき校長の大和見聞録)

身近すぎて知らない！“蘇鉄”～ソテツ～

～大和で拾った石～

鹿児島本土ではごく普通にたくさん見られるのですが、奄美では軽石をほとんど見ません。(去年の11から12月にかけて奄美の海岸に多量の軽石が漂着しましたがあれは島外のもので)これは奄美では完新世(約1万年前から現代)に活発な火山活動が無かったことを意味します。一方、鹿児島の大隅半島では4～5mに達するような軽石の層や、桜島では火山灰と軽石に埋まった神社の鳥居などをみることができます。火山活動が活発であった証拠です。温泉の数も、全国で2番目の多さです。軽石や火山灰の代わり大和村でよく見られるのが堆積岩で、写真1～3の岩石はチャートといい、4の岩石は頁岩といいます(いずれも村内で撮影したもの)。

チャートは海中の微生物の死骸や貝殻や骨などが長い間海底に堆積して固まってできた石です。一方、頁岩は泥や細かい粒が海底に堆積して固まってできた石です。この他、海底に堆積した砂が固まってできた砂岩も各所で見られます。海底にあったこれらの岩石は地球の地殻変動でゆっくりと隆起して地上に顕れ、奄美大島の一部を構成しています。このことから大和村の一部はかつて海底にあったことが考えられます。なおチャートは湯湾岳山頂や徳浜の断崖や今里で露頭が見られます。(写真5)今里の海岸は様々な色のチャートが海岸で見られるため、時間があるときに散策をしてコレクションしています。



桜島の噴火



1



2



3



4



5チャートの露頭

ソテツは、沖縄の南西諸島に自生する高さ5mほどになる常緑低木です。ごつごつとした太い幹と、切れ込みの入った大きな葉が特徴的。暑さに強く乾燥にもよく耐え、南国風の庭木として重宝されます。生長スピードがゆっくりだったり丈夫で育てやすかったりすることから海沿いの暖かい地域では街路樹などに植えられていることも多いです。一方では盆栽やミニ観葉植物のように、コンパクトに育てる楽しみ方も人気です。ソテツが自生してきた歴史は非常に古く、恐竜時代のジュラ紀から続いていると言われており、「生きた化石」と呼ばれることもあります。ソテツは漢字で「蘇鉄」と書きますが、この木が枯れそうになった時に、株元に鉄釘を打ち込んだり、鉄くすを与えたりすると蘇って元気になるという言い伝えにちなみます。



「日本一！～大きなドングリ～」



平成20年3月に国の天然記念物として指定された、「大和浜のオキナワウラジロガシ林」。H16～18年の調査では直径50cm以上が100本以上、1mを超える物が6本あったそうです。現在は5本となっています。この木になるドングリは、なんと！日本一大きなドングリ(上写真右)なんです。大和浜集落の方々が、昔から「神山」として大切に守り続けてきたおかげで豊かな自然が残されています。入口から徒歩で15分程度の道のりとなっています。これから暖かくなりハブも活動を盛んにする時季となります。散策に行かれる際は、十分な対策をしてくださいませますようお願いいたします。

公民館講座募集中

令和4年度公民館講座の募集中です。今年度は19講座を予定しています。多くの皆様の申込をお待ちしています。詳しくは中央公民館57-2311まで。



油断大敵
コロナ危険
三密

新型コロナウイルスの発生から3年を過ぎましたが、県内でも毎日100名を越す感染者が出ている状況です、身近になってきたコロナですが、もう一度その危険性と対策について家族で話し合ってみてはいかがでしょうか！

毎月19日は『育児の日』、第3土曜日は『青少年育成の日』、第3日曜日は『家庭の日』